

第1252回経営委員会議案

(議決事項 2)

平成28年 1月12日

平成28年度国内放送番組編集の基本計画について

平成28年度の国内放送番組の編集については、別冊のとおり基本計画を策定したので、定款第13条第1項第1号クの規定により議決を得たい。

(別 冊)

平成28年1月12日

平成28年度

国内放送番組編集の基本計画

(案)

編集の基本方針

平成28年度は、メディア環境が激変する中、世界から注目される2020年を見据えて「挑戦」と「改革」をさらに進めていきます。

国内外に難問が山積、国際化や社会のつながりの希薄化が進む今、人々の判断のよりどころとなる、正確な報道と豊かで多彩なコンテンツを充実し、全国のネットワークを生かして積極的に日本を世界へ発信、「情報の社会的基盤」の役割を果たしていきます。

まず国内放送番組の編集にあたっては、事実に基づき、公平・公正、何人からも干渉されない放送の自主自律と不偏不党を貫き、公共の福祉や社会の健全な発展、人々の命と暮らしを守る、公共放送の「原点」を堅持します。そして日本と世界の課題を読み解き、新しい手法も駆使した深い取材に基づくニュース・報道番組、幅広い世代の期待に応える創造的な文化・教養・娯楽番組など、質の高い放送を実現します。メディアが多様化していく中で、テレビならではの魅力を発信、幅広い世代の視聴者の心をつかむコンテンツを充実させます。

また、日本では深刻な自然災害が相次ぐようになっています。全国の放送局は地域に密着、防災や減災につながる情報発信と体制作りに努めます。引き続き、東日本大震災の被災地を支援する番組にも取り組みます。

さらに、スーパーハイビジョン試験放送が始まり、改正放送法も2年目に入ります。最先端の高精細映像による番組制作や、インターネットを活用した新たなサービスをより一層、強化します。

そしてリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開かれる平成28年は、2020年東京大会へ向けて本格的なスタートです。リオデジャネイロ大会では、今までにない魅力あるオリンピック・パラリンピックの放送の技術開発と番組制作に挑み、東京大会で目指す世界最高水準の放送・サービスにつなげます。

平成28年度、NHKは「より身近で、信頼できるメディア」への発展と将来の「公共メディア」への進化を見据え、挑戦と改革を加速します。

編集の重点事項

1. 「命と暮らしを守る」報道に全力を挙げ、 東日本大震災からの復興を積極的に支援

繰り返す豪雨、相次ぐ噴火や地震。自然災害が激化、突発化、多発化の傾向を強める日本で、防災・減災報道は公共放送の使命として年々重みを増しています。噴火警報、特別警報などに的確に対応し、より正確で迅速な報道体制を強化します。また、首都直下地震、南海トラフ巨大地震などの大規模災害に備え、機動的で強靱な緊急報道・制作体制を強化、いかなる場合も途切れることのない放送を維持します。そして、東日本大震災被災地の現状と課題、原発事故後の対策を伝え、復興を手助けします。

2. 日本や世界の課題に向き合い、 人々から信頼される報道・番組を充実

少子高齢化、社会保障、いじめ、多様な生き方、紛争、安全保障など、日本や世界が直面するあらゆる課題に対し、公平・公正な報道姿勢を堅持、事実に基づく正確で迅速なニュース・骨太な番組を積極的に発信します。信頼される放送で、人々の判断のよりどころとなる、正しい情報を提供する役割を果たしていきます。

また、複雑で難解な問題や現象であっても、ビッグデータの多角的分析など新手法を駆使して、わかりやすく丁寧に伝え、多様な視聴者の関心に応えます。

3. 視聴者の幅広い期待に応えて、 見応えある魅力的なコンテンツを開発・制作

NHKが持つ7つの放送波を活用し、幅広い世代の多様な関心に応えます。

総合テレビジョンでは、日本と世界の課題に向き合い、社会が進むべき方向を探るわかりやすく信頼されるニュースや番組を強化します。そして、文化・教養・娯楽などの分野で魅力あふれる多彩な番組をバランスよく編成し、幅広い世代から支持されるチャンネルを目指します。教育テレビジョンでは、子どもからお年寄りまでのさまざまな「知りたい」「学びたい」に、趣味・生活・教養・語学など彩り豊かな番組で応え、教育、福祉などの重要課題について発信し続けます。BS1はライブ感あふれる情報チャンネルとして、「国際・経済情報」「スポーツ」「ドキュメンタリー」の三本柱に「2020年東京」を加え、多様な番組を戦略的に展開します。BSプレミアムは、「文句なしに見たい」高品質で個性的なコンテンツを戦略的に編成、本物志向の知的エンターテインメントチャンネルの存在感を高めます。音声放送は、インターネットとの連携を進めながら、「安全・安心ラジオ」として機能を高めるとともに、多彩な番組を展開します。

4. 地域の「安全・安心の拠点」となり、地域活性化に積極的に貢献

NHKの全国の放送局は、防災・減災報道、緊急報道に全力を挙げるとともに、地域の情報を全国、そして世界へ積極的に発信していきます。自然や文化、人と暮らし、経済、観光資源など、その土地ならではの魅力や、地域の課題を全国に伝える情報番組やドラマ、公開番組を強化し、地域の活性化に貢献します。

さらに、地域に密着した地域のための情報提供を充実、暮らしや安全、地域の振興に役立つ番組やイベントなどを通じて、信頼される身近な放送局としての存在感を高めていきます。

5. 2020年東京オリンピック・パラリンピックへ、本格スタート

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックでは質・量ともに、高い次元の放送を実現します。大会の盛り上がりやビビッドに伝えるライブ感あふれる放送や、最新のデータ分析技術を駆使し競技や選手の魅力をより深く描く番組などを充実させます。特にパラリンピックの放送を大幅に拡充、その魅力を伝えます。

さらに2020年に向けて、より魅力的なスポーツ中継、番組の開発を進め、東京オリンピック・パラリンピックで世界最高水準の放送とサービスの提供を目指します。

また、広がる国際交流やボランティア活動、来日外国人とのコミュニケーションに役立つ多様な番組も展開します。各種スポーツイベントの中継を拡充するとともに、長期的な展望に立って障害者スポーツを含めたスポーツのすそ野を広げ、視聴者のさまざまな興味と関心に応えます。

6. 新たな可能性を開く放送・サービスを創造

2年目に入る改正放送法を踏まえ、放送番組とインターネットコンテンツが両輪となる新たなサービスを一層、強化します。

防災・減災報道では、より早くより多くの人にきめ細かく情報を届けるため、新たな技術・サービスを開発します。放送とインターネットの連携の可能性についても、さまざまな挑戦を行い検証します。また、普及が進むスマートフォンへの対応も進め、「NHKオンライン」（NHKホームページ）の改善など、より利用しやすいサービスを展開、「NHKオンデマンド」（有料動画サービス）との連携も深めます。

そしてスタートするスーパーハイビジョン（8K・4K）試験放送では、スポーツや芸術、ドラマに加え、ドキュメンタリーなど、多彩なコンテンツを届けます。スーパーハイビジョン時代を見据え、NHKならではの高精細の多彩で魅力あるコンテンツを充実します。

7. 日本を世界に、発信を強化

質の高い大型コンテンツの国際共同制作など、さまざまな形での国際展開を進め、日本の文化、産業、科学技術など、その魅力や姿を積極的に発信、国際社会の日本への理解を促進します。

また、国内放送と国際放送との連携を強化し、両方で放送する番組を制作するなど、日本の「いま」と「魅力」を伝えるコンテンツを質・量ともに拡充させます。

8. “人にやさしい” 放送・サービスの拡充

「いじめ」、「自殺」、社会に生きづらさを感じる人々が増えています。そうした人々に寄り添い、社会との絆になる放送を続けます。

そして、字幕放送・解説放送・手話など、「人にやさしい」放送・サービスの充実にも努めます。字幕放送と解説放送は、長期計画に基づき拡充、特に、ニュースなどの生字幕放送については、地域放送も含めて積極的に取り組みます。

以上の重点項目の実施にあたっては、以下のような施策も勘案しながら、創造的で活力に満ちた取材・制作体制を構築します。

- 「国内放送番組編集の基本計画」が放送サービスとして実現されているか、録画視聴やインターネット利用も含めたNHKへのトータルな接触を把握する指標の整備を進め、より適切な評価・管理体制を作ります。
- スーパーハイビジョンの試験放送で通常番組（2K）との一体制作を拡大するなど、限られた経営資源を効果的・効率的に活用し、ニュースや番組を充実させます。
- 人材育成で、事実に基づき正確に伝える放送倫理の原点を徹底。コンプライアンス意識を組織全体で共有し、確かで正しい情報と質の高い番組の提供に努めます。

各波の編集方針

総合テレビジョン

人々の「命と暮らしを守る」正確で迅速な報道に努めるとともに、日本と世界の課題に向き合い、社会が進むべき方向を探る基盤となるニュース・番組を充実します。また、文化、教養、娯楽番組などをバランスよく編成し、幅広い世代に支持されるチャンネルを目指します。さらに、世界水準の高品質な番組を制作するとともに国際放送との連携を進め、NHK全体の魅力を高めます。

(編集のポイント)

1. 世の中の動きを迅速にわかりやすく伝えるニュースと魅力あふれる多彩な番組を編成
2. 社会の中核層が明日への活力を生み出す新しいスタイルのニュース番組を編成
3. リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックとその先の「2020年東京」に向けたスポーツ番組の開発
4. 国際放送と連携し、日本の魅力を世界に発信する番組を制作
5. 地域の課題と向き合う番組を充実し、地域の魅力を全国に発信

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

教育テレビジョン (Eテレ)

幅広い世代の「知りたい」「学びたい」に多彩な番組で応えるとともに、教育・福祉などの重要課題を継続して発信します。幼児・子ども番組や趣味、実用番組をより魅力的な内容にブラッシュアップするほか、「2020年東京」に向けてEテレならではの国際交流などに役立つ情報も提供していきます。

(編集のポイント)

1. 教育、福祉、防災などの課題への総合的取り組み
2. 時間帯ごとにターゲットを明確にした編成
3. 趣味・生活・教養・語学など、幅広い世代の「知りたい」「学びたい」に応える多彩な編成
4. インターネットとの連携をさらに深め、新しい番組やサービスを開発

〔放送時間〕

○1日20時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

BS1

「ライブ感あふれる情報チャンネル」として、「国際・経済情報」「スポーツ」「ドキュメンタリー」の三本柱を中心に、世界と日本の今をこれまで以上にタイムリーに伝えます。「2020年東京」を新たな柱に加え、オリンピック・パラリンピックに向けた幅広い番組を戦略的に展開し、新しい視聴者の獲得につなげます。

(編集のポイント)

1. リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック、そして、2020年の東京につながる番組を戦略的に展開
2. 新技術を活用したスポーツ中継など、“新時代のスポーツ体験”の実現
3. スポーツを通して幅広いメッセージを伝える、多彩な番組を編成
4. 国際・経済情報のさらなる充実と、グローバルな視点で世界の課題と向き合う大型番組の開発
5. タイムリーで質の高いドキュメンタリー番組を制作、国際共同制作にも積極的に取り組む

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

BSプレミアム

「本物志向の知的エンターテインメントチャンネルを、もっと身近に」
地上波に飽き足りない視聴者が「文句なしに見たい」と話題にする番組や、「肩は凝らないけど深い」番組など、高品質かつ個性的なコンテンツをさらに強化。
戦略的な編成で、より多くの視聴者の獲得を目指します。

（編集のポイント）

1. BSプレミアムのフラッグシップとして、大型エンターテインメントや、長期取材に基づくこれまでにないスケールの番組など、多彩な視聴者の関心を呼ぶ番組を編成。
2. 他波にはない個性と魅力を持つ、新ジャンル・新フォーマットの番組を開発。
3. 「日本再発見」をコンセプトとした、地域の魅力や価値を発信し、地域を応援する番組の強化。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

ラジオ第1放送

音声基幹波として「安全・安心ラジオ」の機能強化に引き続き取り組み、地域の暮らしや安全に役立つ生活情報番組などを充実・強化します。それぞれの番組のターゲットをより明確にして内容を深化させるとともに、双方向性など、ラジオならではの強みとインターネットとの連携を生かした番組や演出で接触者率向上を目指します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成するとともに、インターネットとの連携で「いつでも」「どこでも」学べる機会を提供します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、報道番組10%以上を編成します。

FM放送

総合音楽波として、さまざまなジャンルの音楽番組を引き続き編成します。各番組のブラッシュアップと定着を進めるとともに、新規リスナー獲得につながる番組の編成も行います。災害など緊急時には、ラジオ第1放送と連携して機動的な編成を行い、地域情報波としてきめ細かなライフライン情報を提供します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。